

R4 美麻小中学校 学校運営協議会の活動を振り返って

地域との協働によりふるさと美麻を愛し、語り、想いを深める児童生徒

1 今年度の活動内容

- 第1回 4月22日(金) ランチルーム
(1) 令和4年度 会長・副会長の確認
(2) 令和4年度美麻小中学校ガイドラインについて
(3) 美麻スクールパートナーズの活動状況と今後の活動



- 第2回 12月9日(金) ランチルーム
(1) 美麻小中学校の自己評価について
①資料説明 ②総合評価 ③自己評価への質問
(2) 美麻スクールパートナーズの活動状況
(3) 現状での来年度の予定 メンドシーノ訪問、運動会など
(4) 美麻スクールパートナーズの活動状況と今後の予定



- 第3回 2月17日(金) ぽかぽかランド
(1) 令和5年度 美麻小中学校運営方針・ガイドラインについて
(2) スクールパートナーズの活動状況及び今後の活動について
(3) 令和5年度 学校運営協議会委員と運営について
(4) 特認校のバス通学について

【委員の声】

1 学びづくりへの評価について

- ・昨年と比べて「大変よい」「よい」と感じる回答が90%以上となっており、保護者も小グループによる学習など対話を軸とした学びに理解が深まり、前年比16%とアップしたことは、一人ひとりと丁寧に向き合い、自分の意見を述べたり、人の意見を聞けたりする児童生徒が育っている証であり、取り組みの成果として高く評価したい。
- ・一学期の反省の上に立って、指導法の改善をすることにより、評価が向上していて一定の成果があったと思われる。
- ・タブレットの使用については弊害が生じる可能性もあるので、使用目的や使用頻度をはっきりさせていくとともに、エビデンスを拾っていく必要がある。

2 体づくりへの評価について

- ・元気アップ運動の効果があり、児童生徒の意欲的な取り組みが向上していて、今後とも継続していくことを期待する。
- ・運動量の減少、生活習慣病の増加などが社会問題となっている中で、学校だけで子供の体力を考えても難しいので、家庭とも問題を共有していくのが望ましい。
- ・体づくりの基本は歩くことだと思う。豊かな自然の中で歩くことは、体力のみならず、精神的にも落ち着きをもたらし、子供にとって良いことだと思う。
- ・『体を動かすことの楽しさ』を標語に、体を動かす体力づくりから健康づくりへと結びつけていけたらと思う。

3 集団づくりへの評価について

- ・「グループのリーダーは最上学年がする」という概念から脱却し、7学年がリーダーを務めるという発想が良い効果をもたらしている。「学校に行くのが楽しみ」という子供が増えれば良いと思う。
- ・異年齢の交流が幅広くできる美麻の環境で、人間関係の構築を学べることは、他校に比べて大変有利であると思う。
- ・春には、個々の動きが目立っていたが、梨の木祭では集団になじんで活動できていたのが感動した。

2 今年度の成果・課題 及び 次年度に向けた学校運営協議会の運営のあり方

コロナ禍前の学校教育活動に戻すための努力を少しずつ行ってきた学校運営だった。地域の方々の多大な協力のもと、一定の成果を得ることができた。今年度は、学校運営協議会で熟議の時間を十分確保できなかった。次年度は委員が改選されるため、これまで以上に委員相互の意思疎通を密にする意味も込め、熟議の時間を十分に取って、学校づくりの方向性を熟成させていきたい。また、協働の学びと個別最適な学びの充実、特認校制度への対応に力を入れていきたい。

R4 美麻小中学校 地域学校協働活動を振り返って

《今年度の取組内容》

「よりよい学校づくりが美麻の地域づくりにつながる」というねらいのもと、地域と学校とのより深いかわりが1年生から9年生まで活発に行われている。

子どもたちは地域の方々をはじめとした多くの方々との関わり合いによって、コミュニケーション能力や交渉力をはじめとした非認知的能力が向上し美麻のことを理解することから、自らよりよい地域づくりに寄与しようとする力“社会力”が合わせて向上している。

【事例】

(1) 4年 「小屋づくりプロジェクト」(総合的な学習の時間)

小屋の土壁を完成させるために、美麻地区にある竹を探す。電話で交渉。竹の切り出し運搬、なたを用いての枝払い等の技術の伝授を地域の方々のご協力で実現。細かくした竹を編み、250キロを超える土を運搬。その後、土壁づくりが本格化し、土壁が完成した。

晩秋に新行にある水車小屋を見学。茅刈り体験を実施。茅葺きのプロから、茅葺き屋根の魅力について学ぶ。今後は屋根をどのようにしていくか現在思案中。



(2) 5年 「どうしてこんなにおいしいの？」(社会・食育)

あずみ野エコファームの豚肉を使ったポークソテーが給食で提供され、あまりにもおいしいその秘密を、生産者を招いて探る。現地見学を行い、そこでの人々の工夫、苦労を直に知る。見学させていただいたお礼に、このおいしさを多くの人に伝えるにはどうしたらよいかを考える。広告、CM等の案が出され、TVカメラマン、新聞記者に直接インタビュー。実現可能な方法を選択。現在CMとチラシを作成中。



(3) 6年 「Jomon now@miasa」(総合的な学習の時間)

社会科で歴史を習う6年生は、実際に縄文人になることを決意。まずは火起こし器を自作し、火起こしに挑戦。すぐに煙が出るも着火には至らず。地区内にある河川脇にある土を採取し、粘土を抽出。その粘土で縄文土器を形成。縄目模様をつけ、天日干しをして野焼きをした。イナゴを餌にしてイワナを釣る。釣ったイワナをさばき、串刺しにして焼く。土器作り、イワナ釣りは地元の専門家に指導をいただいた。



(4) その他

「1～4年 山菜とり、朴葉巻き」「1年 イワナの孵化」「2年 豆腐づくり」「3年 地域巡り お池の活動」「7年 美麻の水 麻」「8年 トレジャーハント美麻」「9年 自分×美麻の魅力」など、様々な場面で地域の方々との協働活動を活発に実施した。

また、10月には学校職員が美麻地区にある文化財、河川、手作りの公園等を地域の方の案内で学ぶ実地研修を行うことができた。この地区に生活していच्छる方々の熱い思いを肌で感じることができ、素敵な研修となった。

《今年度の成果・課題 及び 次年度の推進計画》

本年度は、コロナ禍にあっても、コロナ禍前のような学習活動を実現できるようにスクールパートナーズの方々、地域の方々との関わりを継続することができた。地域学校協働活動が、子どもたちにどのような資質・能力を育成していくのかを、教師とスクールパートナーズが互いに共有することによって、学習活動の更なる充実を図っていききたい。